

研究種目：基盤研究（A）

研究期間：2007～2010

課題番号：19202008

研究課題名（和文） 東アジア古典学としての上代文学の構築

研究課題名（英文） JODAI BUNGAJU in East Asian Classics

研究代表者

神野志 隆光（KOHNOSHI TAKAMITSU）

東京大学・大学院総合文化研究科・教授

研究者番号：60018900

研究代表者の専門分野：国文学・日本文学

科研費の分科・細目：文学・日本文学

キーワード：国文学・古代文学・漢文学

### 1. 研究計画の概要

(1) 民族文化的・国民文化的に各国の古典をみる発想（中国古典、日本古典といったとらえかた）を脱して、古代東アジアを、共通の文字・共通の文章語をもち、教養の基盤を共有する、ひとつの文化世界としてとらえる見地で、研究会を組織し活動を広げる（上代文学会のセミナーとしても位置づけ、ひらかれた形態の研究会をめざす）。国内のみならず、海外の研究者との協働を獲得する。

(2) その研究成果を広く発信する。

(3) 研究活動とともに、そうした見地によって教育プログラムを具体化する。

『古典日本語の世界』『漢字テキストとしての古事記』の問題意識を出発点とし、東アジア古典学の実習テキストの作成を試みる。

授業の実践を行い、それを検討しつつ、実際的なプログラムを作成する。

海外の研究者と連携するなかで、国際的共通プログラムを追究する。

(4) その研究・教育実現に必要な設備の整備を行う。

### 2. 研究の進捗状況

(1) 国民文化的に各国の古典を見る見地から脱却して、東アジア古典世界をとらえる研究活動は、平成19年以後、国内においては東京を中心に14回の講演会・セミナー・シンポジウムをかさね、歴史・文学・語学にまたがる広い研究者の協働を得て展開された。ま

た、海外において、韓国成均館大学・ハーバードイエンチン研究所・コロンビア大学・UCLA・カナダUBC・台湾中央研究院の4カ国7大学・研究所で、シンポジウム・ワークショップをのべ8回開催し（英語・ハンゲル・台湾語のペーパーによった）、おおくの参加者を得て問題認識を共有することができた。それによって、各国の研究者との協働関係を確認することができた。

(2) 上記の研究会、シンポジウムの成果は、報告者各人の論文として刊行された。また、本プロジェクトのホームページを通じて、日本語に加えて、英語・ハンゲル・中国語・台湾語の4カ国語（東アジア地域に配慮した言語構成）によって広く海外にも発信している。

(3) 教育プログラムは、本プロジェクトの特長であるが、東京大学教養学部では古典日本語の授業の定着をみた。また、教育という見地を一貫して実践的に追究し、中国南京大学における集中講義を奈良女子大学と共同しておこない、アメリカ・コロンビア大学のワークショップでは模擬授業を試みた。模擬授業やシンポジウムをつうじて、教本の実際について試行的に提起し、教育への具体化に大きく踏みこんだ。それは出発点となるものとしてうけとめられたと言ってよい。

(4) 東京大学に、『佩文韻府』等わたしたちのめざす教育にとって必須の検索CD、および、その運用のためのPCを寄贈し、現場の設備を整備したほか、北海道大学・京都大学でも図書等を充実した。

### 3. 現在までの達成度

当初の計画以上に進展している。

(理由)

ホームページによる反響は、とくに海外からおおきく、カナダUCBやUCLAからのオファーは、ホームページをつうじて寄せられた。こうして海外の研究者との協働が広く得られたことの意義はおおきかった。教育プログラムについても、模擬授業やそこに参加した研究者の反応をつうじて、たとえば教本は、当初考えていたのに対して、より実際のなありようの検討に踏み込むこととなった。

### 4. 今後の研究の推進方策

(1) いままですすめてきた活動をさらに推進するが、とくに、海外の研究者との協働をひろげ、より強くすすめる。いま欠けている中国の研究者との協働に向けて取り組む。

(2) ホームページの、複数言語による発信を継続し、充実させる。

(3) 教育プログラムについて、より具体化することを追究する。国際的共通の教本など、実際の面での具体化をすすめる。

(4) 教育の現場に必要な設備はなお不十分であり、そのいっそうの充実をはかる。

### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計42件)

齋藤希史、「漢字圏としての東アジア」、『大航海』、査読無、第66号、2008年、77-85頁。

〔学会発表〕(計17件)

徳盛誠、問題としての東アジア古典世界、国際シンポジウム「東アジアの地域交流」、2009年12月18日、台湾・国立中央研究院近代史研究所。

神野志隆光、Rethinking the Common Aspects of Education in the East Asian Classical World、Workshop “The Cultural Foundations of the East Asian Classical World: A Program for Graduate Study”、2009年4月17日・4月20日、University of British Columbia (17日)・University of California, Los Angeles (20日)。

〔図書〕(計16件)

神野志隆光、東京大学出版会、『変奏される日本書紀』、2009年、334頁。

村瀬憲夫・身崎壽・神野志隆光・内田賢徳・他21名、新典社、『万葉集の今を考える』、

2009年、11-70頁。

〔その他〕

ホームページ

<http://fusehime.c.u-tokyo.ac.jp/eastasia/>